教科指導の中で地域課題等テーマ設定し、専門高校として人材育成ができた

岡山県立瀬戸南高等学校　地域共育審議会

活動の目的

地域の課題やニーズを踏まえ、カリキュラム等の開発により「おかやま創生」を担う人材の育成を目指す。

活動の内容及び経過

(1) 各学科のプロジェクト活動・発表会

①生物生産科「交流で地域活性化を目指して！」

本校で栽培したコメやダイズを用いておかきや醤油を開発。地域の農業生産者や加工業者と協力し、地域活性化をテーマ間に活動。また、販売実習やベトナム人留学生との交流をとおして、交流自体が地域を応援することになり、地域の活性化にも繋ぐことができた。

②園芸科学科「パスクラサンのPRと商品開発！」

赤磐特産の幻のフルーツ「パスクラサン（西洋ナシ）」。生産者や行政、JAとともにその栽培方法や魅力を発信。デパートでの販売も行い、県内外にパスクラサンをPRした。また、規格外の果実を用いたフルーツソースを、地域おこし協力隊とともに開発・販売した。

③生活デザイン科「復活！備前黒皮かぼちゃ」

岡山の在来種で、ほとんど栽培されなくなった「備前黒皮カボチャ」を地元の保存会の方々とともに復活させるプロジェクトをスタート。調理しても形が崩れにくく、妊娠初期に必要な「葉酸」が豊富に含まれている。その栽培実験とそれを用いた料理講習会の実施や商品開発・レシピ集の配布を行った。

(2)「先進農業経営」バス研修

岡山市北区御津吉尾にある有限会社スコレーは、洋蘭・ブドウ・ドラゴンフルーツの生産販売を行っている。また、ファームカフェを付設したり農産加工品の製造販売も手がけたりするなど6次産業化の取り組みでも注目を浴びている。園芸科学科の生徒がほ場を視察し、時間をかけて説明していただいた。経営戦略やブランディングについても学習し、農業の可能性について考える機会となった。

(3) 講座「攻めの農業経営」講演会・WS

岡山大学地域総合研究センターのアドバイザーのもと、農業の専門科目の中で①事前指導（「食料・農業・農村白書課題レポート」）、②学年別課題レポート、③講演会、④グループワーク、⑤学年別課題レポート、⑥事後指導、と展開できるよう学習指導案を作成して、農業科の全ての教員が統一した指導ができるようにした。

活動の成果・効果

〈評価指標〉

	H30年度	R1年度
①農業関連進路先（就職・進学）の数	〈就職〉4事業所5名 〈進学〉10校30名	〈就職〉12事業所12名 〈進学〉12校26名
②農業に関するイベント・勉強会等への参加	28回 233名	29回 245名
③6次産業化の実践例	8商品	9商品
④マスコミ登場回数	18回	22回

岡山大学地域総合研究センターの助言を仰ぎながら、目標達成に向けて評価指標を作成した。そして、昨年度と比較した結果、一定の成果が現れたものと思われる。

今後の課題と問題点

教科指導の一つの取組として導入し、多くの教員が地域資源を教材として地域振興に貢献しようと積極的に取り組めた。また、それらの活動の成果を発表する機会も得ている。加えて、赤磐市は本校との強固な連携を模索していることもあり、双方がウィンウィンの関係を構築できた。しかし、生徒の活動の継続的・経済的な課題は残っている。より充実した内容へとブラッシュアップを繰り返し、より効果的かつ魅力的な形へ進化させるため、多くの外部サポートも必要となる。

●代表者：安井盛　●所在地：岡山市東区瀬戸町沖
●TEL：086-952-0831　●E-MAIL：setomina@pref.okayama.jp
●URL：http://www.setomina.okayama-c.ed.jp
●設立年：2016年　●メンバー数：53名